

評価の実施方法及び テーマ別事後評価報告書 について

平成20年8月22日

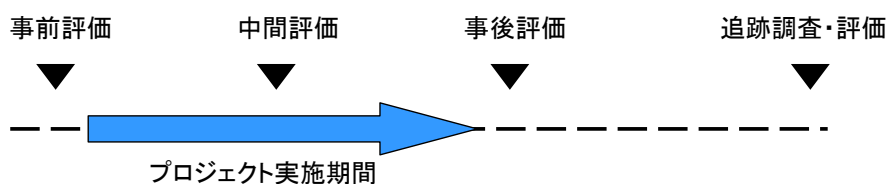
NEDO技術開発機構
電子・情報技術開発部

1

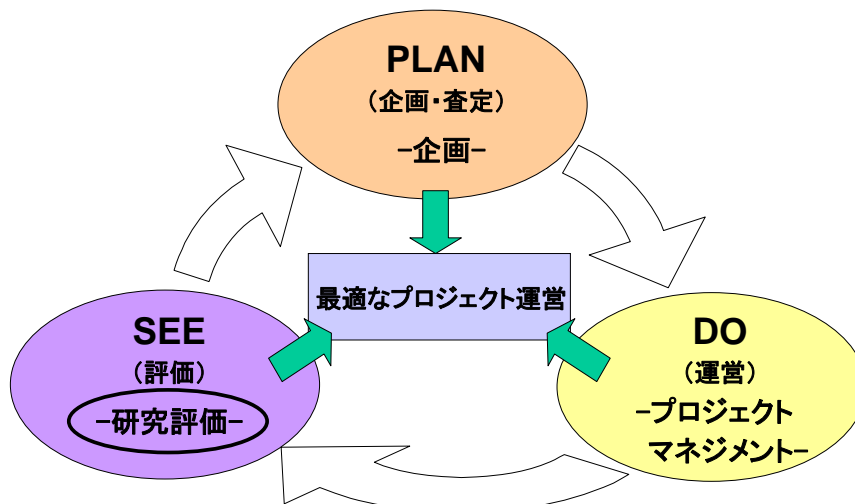
NEDOにおける研究評価の位置付け・目的



◆研究評価の実施時期



◆研究開発マネジメントサイクル



◆研究評価の目的

- (1) 業務の高度化等の自己改革を促進する。
- (2) 社会に対する説明責任を履行するとともに、経済・社会ニーズを取り込む。
- (3) 評価結果を資源配分に反映させ、資源の重点化及び業務の効率化を促進する。

2

◆ 内容及び性格による事業の分類

□ プロジェクト

NEDO が自ら定めたプロジェクト基本計画に基づき実施する研究開発事業。

□ 制度

プロジェクトのうち、研究開発内容を定期的に公募・選定して実施する研究開発事業。
 なお、公募・選定した研究開発内容の単位をテーマ(個別テーマ)という。

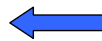
「半導体アプリケーションチッププロジェクト(情報家電用半導体アプリケーションチップ技術開発)」は、「制度」に該当

◆ 研究評価の種類

□ プロジェクト評価

□ 制度評価

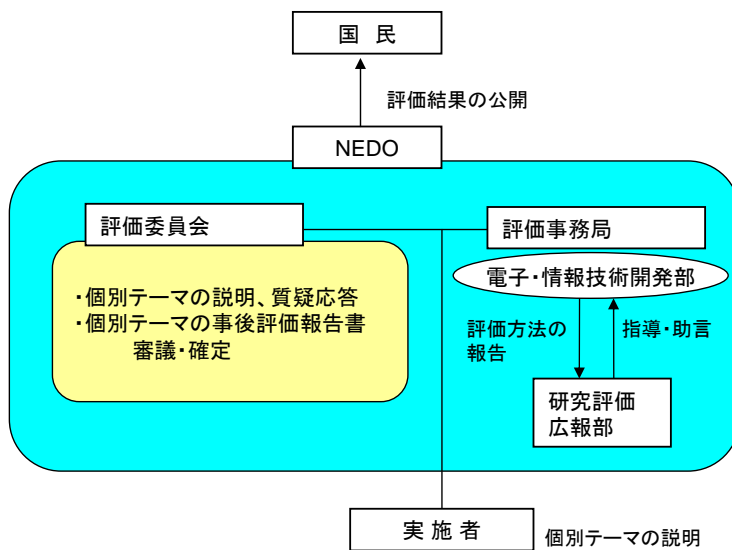
□ 個別テーマ評価



今回の評価は、「個別テーマについての事後評価」。
 評価事務局は、推進部署である電子・情報技術開発部。

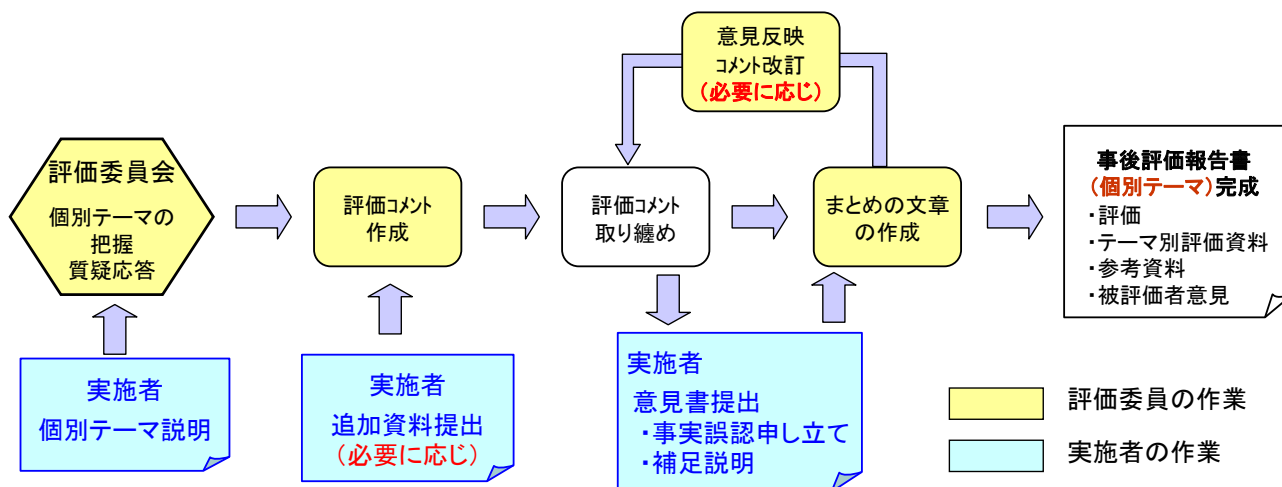
評価実施体制

【個別テーマに関する評価】



評価者	外部評価者(事業の目的や態様に即した専門家や、経済的・社会的ニーズに基づいて指摘できる有識者等)
被評価者	個別テーマの実施者
評価事務局	電子・情報技術開発部

評価フロー — 評価者と被評価者は対等の立場 —



評価項目・評価基準及び評価法(案)(1)

◇以下の2つの評価軸に対して、標準的な評価項目・評価基準を設定

評価項目[1] 研究開発成果について

- (1) 目標の達成度
- (2) 成果の意義
- (3) 知的財産権等の取得及び標準化の取組
- (4) 成果の普及

評価項目[2] 実用化、事業化の見通しについて

- (1) 成果の実用化可能性
- (2) 事業化までのシナリオ
- (3) 波及効果

◇各評価項目に対し、**A(優)**, **B(良)**, **C(可)**, **D(不可)**の4段階の評点付けをする。

評価項目[1] 研究開発成果について

<判定基準>

- ・ 非常によい → A
- ・ よい → B
- ・ 概ね妥当 → C
- ・ 妥当とはいえない → D

評価項目[2] 実用化、事業化の見通しについて

<判定基準>

- ・ 明確に実現可能なプランあり → A
- ・ 実現可能なプランあり → B
- ・ 概ね実現可能なプランあり → C
- ・ 見通しが不明 → D

◇各評価項目に対して、下表のようにコメントをもらう。

単に妥当である、評価できるというコメントではなく、可能な限りその理由を記述。

<肯定的意見>
<問題点・改善すべき点>
<その他の意見>

中止テーマについて

◇当初予定した実施期間の途中で中止した個別テーマについては、以下の評価項目を設定

評価項目[1] 実施内容の妥当性

(中止に至るまでの研究開発の進捗が妥当か、情勢変化等への対応が適切か、という視点。)

◇評価項目に対し、**A(良)**、**B(可)**、**C(不可)**の3段階の評点付けをする。

評価項目[1] 実施内容の妥当性

〈判定基準〉

- ・ 妥当である → A
- ・ 概ね妥当である → B
- ・ 妥当とはいえない → C

テーマ別事後評価報告書の構成(案)

